



アトピーへの正しい視点 みんなで考える アトピー ジャーナル

JADPA



NPO法人日本アトピー協会

発行：NPO法人 日本アトピー協会 〒541-0045 大阪市中央区道修町1-1-7日精産業ビル4階 電話.06-6204-0002 FAX.06-6204-0052 Eメール：jadpa@wing.ocn.ne.jp ホームページ：http://www.nihonatomy.join-us.jp/

CONTENTS

- ◆ バイオ最前線 その① 虫たちの大活躍 ..... P1
- その② 思いきった発想のバイオ治療 ..... P3
- その③ まだまだありますスゴイ事例 ..... P3~P5
- ◆ 消費税が8%になって医療費はどうなるのでしょうか... P5
- ◆ ハーイ！アトピーづき合い40年の友実です ..... P6 (フリーアナウンサー 関根友実さん・第12回)
- ◆ ATOPIC WHO'S WHO ..... P6 (わが国の医学の基礎を築いた医聖 曲直瀬 道三)
- ◆ ドクターインタビュー ..... P7 藤谷クリニック 小児・アレルギー科 藤谷 宏子先生
- ◆ ATOPICS ..... P8 なぜ学校に常備出来ないの？エビベン・東北支援関連情報・横浜山口医院「かくれステロイド」発覚・ブックレビュー

バイオ最前線

その① 虫たちの大活躍

虫たちが蠢(うごめ)く季節となりました。過去に「蠢く」の文字を使って虫たちを悪者にした記事を書きました。その罪滅ぼし?に今回は虫たちの「善行」を調べてみました。昆虫は4億年も前から地球上で繁栄し約百万種類と云われ、ほんのわずかな種類を除いて私たち人間とは何のかかわりもなく生息しています。しかしながら昆虫は個々に特異な生存方法を持ちながら生息しています。そんななかで「知らなかった」では虫たちに申し訳ないほど、私たちに多大な貢献をしていることが判りました。よく知られているのはミツバチの恩恵。ハチミツやロイヤルゼリー、花粉も健康食品に利用され、プロポリスは薬品にもなっています。蜜蝋は上質の化粧品原料、果樹園での受粉にもミツバチは欠かせません。果実の受粉には嫌われもののハエも大活躍。また蚕にひと働きしてもらって絹繊維以外にもインターフェロンを造り出したり、機能的タンパク質を造り出すなど、蚕を働き手とした昆虫工場がバイオの担い手として産業界で注目されています。虫から見れば害虫や益虫は人間を基準にしたもの。虫たちは単に自己の短い一生を精いっぱい生きていくだけ。そこで人間の英知で共存共栄をはかり「益虫たち」が格段に多くなっている状況を知りました。

◆ 昆虫工場・カイコは優秀な働き手 ◆

カイコの病気からアトピー治療薬開発の可能性も出てきました。一軒の農家は通常、8万頭前後のカイコを飼育するためカイコに病気が広がると農家をはじめ織屋さんも大打撃で、何度となくそのような厄介な災難をくりぬけて絹織物が安定供給されるようになりました。カイコの病気はウイルス性で感染するとカイコは白くなって節々が盛

り上がって絹成分のセリシンを作らなくなります。核多角体病と云う名前では呼ばれていますが、これはカイコに取りついて病気を引き起こすウイルスの呼び名で、カイコなどの昆虫の幼虫にとりつくウイルスは人のウイルスと異なり紫外線から身を守るために核多角体という構造のタンパク質を持ちバキュロウイルスとも呼ばれています。ウイルスは最少の遺伝子配列で出来ている単純な構造ですので、このタンパク質を通して遺伝子操作がしやすく、また核多角体を持つ昆虫ウイルス=バキュロウイルスは人には無関係でカイコなど昆虫の幼虫だけにとりつくので、このウイルスを遺伝子操作すれば、カイコはセリシンに代わる物質を作り出すことができると考えられ、実際にカイコを使ったインターフェロンは動物用ですが医薬品となっています。カイコの血液中で造られるインターフェロンの生産能力は酵母菌の6千倍も高濃度と言われ、1頭のカイコからバイアル1本分(20ml)のインターフェロンが出来るとされています。カイコが作りだしたインターフェロンは東レから発売され、またEU諸国やニュージーランドでは犬アトピー用のインターフェロンも普及しているという事です。インターフェロンは免疫や炎症にかかわるサイトカインの一種ですから私たちのアトピー性皮膚炎に有意義なインターフェロンはいずれカイコによって作りだされると思います。その日が早く来ることを願っています。昆虫ウイルスを利用してカイコからインターフェロンをつくる発想は30年も前の1984年に鳥取大学農学部の前田進助手(当時)が発表。その後、前田先生は加州大バークレー校の教授となりその業績は世界的にも認められましたが、惜しくも1998年、弱冠48歳で早世。前田先生の著わした「昆虫ウイルスとバイオテクノロジー」はバイオの世界ではバイブルのような存在となり、昆虫ウイルスを応用しカイコなどの昆虫の幼虫に有益な物質を作り出す「昆虫工場」が全世界に広がりました。なお前田先生が勤務されていた加州大バークレー校には先生の業績をたたえて、カイコに因んだ桑の木が記念樹

患者さんからのご相談はいつでもお受けします。

症状がいつこうに改善されず長びく治療にイライラが募り先行きを悲観…ちょっと待った! 全国約450万人の方があなたと同じ悩みをかかえています。ここはみんなで「連帯」し、ささえあいましょ。日本アトピー協会をそのコア=核としてご利用ください。

ご相談は

電話：06-6204-0002 FAX：06-6204-0052  
メール：jadpa@wing.ocn.ne.jp

お手紙は表紙タイトルの住所まで、なおご相談は出来るだけ文面にしてお願いします。電話の場合はあらかじめ要点をメモにして手みじかをお願いします。(ご相談は無料です。)

◆協会は法人企業各社のご賛助で運営しております。 ◆患者さんやそのご家族からのご相談は全て無料で行ってまいります。

として植えられていると云う事です。

### ◆ 昆虫工場の別の働き手、トランスジェニックカイコ ◆

ウイルスではなくカイコ自体の染色体に出入りできる「トランスポゾン」という移動性遺伝子を操作する方法も研究されています。トランスジェニックという遺伝子操作の一種です。これはカイコが絹糸をつくる遺伝子に新たな機能を持つ遺伝子を加えることで、セリシンとは別の目的の物質を造り出すことで、例えば蛍光を発する遺伝子を加えれば光る絹糸を作り出すことが出来、これは一代限りではなく次世代にも引き継がれるということです。遺伝子操作と聞けば身構える方も多いのですが、お口に入るものではなく繊維製品であり薬品であつたりしますので少しは抵抗感が薄れますね。ところで現在では遺伝子操作抜きにしてバイオは語れません。多くの恩恵を受けている遺伝子操作忌避から、そろそろ抜けだしたいもの。この技術に応用すればインターフェロンやヒトコラーゲンを大量に含んだ絹を作り出すこともでき、ステロイド格を持った絹がつくり出されたりしてアトピーの方には着るだけで治療効果が得られるという夢のようなことになる可能性も広がります。

### ◆ カブトムシの幼虫体液による抗菌加工 ◆

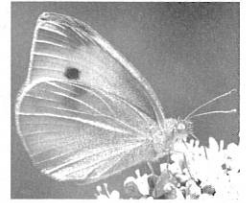
子どもたちに愛されているカブトムシも幼虫はイモムシと呼ばれています。昆虫の幼虫はアオムシ、イモムシ、ケムシでいずれも良いイメージではありませんが、あなごれない有益な働き手であることはカイコの例を見るまでもありません。昆虫の幼虫は主に土壌や動物の糞尿の中で生息するため、周囲の微生物とつねにたたかっています。時には自己に有利なように微生物を取りこんで利用しています。微生物に負けない強力な対抗手段はディフェンシン物質によるものでオリゴペプチドと云うタンパク質で構成、1990年頃から昆虫の幼虫から発見され抗菌剤の宝庫とも云われています。化学的に虫を殺す殺虫剤や抗菌剤に比べて環境負荷ははるかに少なく、また対象の選択性があり何でも殺してしまう化学剤よりは生物環境にやさしく、この分野での発展が見込まれます。カブトムシのディフェンシン物質は農業生物資源研究所の山川稔博士がカブトムシの幼虫の体液から抗微生物ペプチドを見つけ同研究所のチームがタンパク質工学的な手法でディフェンシン物質の改変ペプチドを得ることに成功。大腸菌や緑膿菌などに強い抗菌性を示し有望視されています。このカブトムシ由来のディフェンシン物質はセルロースに浸透しやす



いため繊維製品の抗菌加工が容易であり、抗菌だけでなくガン細胞への有意義性もあると云う事で医療資材への応用が期待されています。

### ◆ モンシロチョウから広がるガン治療の夢 ◆

国立がんセンターではみなさんお馴染みのモンシロチョウの体液から抗がん剤を得ようと試み実験を重ねそろそろ実用段階も近いそうです。チョウ類は幼虫からサナギになるときに飛ぶために胴体を小さくしなければならず、また幼虫からは想像もできないほどの大きな羽根が生えてきます。専門的には完全変態と云いますが、この過程では短期的にチョウの一部の細胞が別の細胞に置き換わります。その際に特定の細胞を殺して新しい細胞に生まれ変わる手助けをする「謎のペプチド物質」がある筈と考え、このペプチド物質には細胞を意図的に自滅させる「アポトーシス」物質が含まれていなければ短期間に細胞は置き変わらないと推測。たまたま別の目的で飼っていたモンシロチョウの幼虫が不要となってたくさん余って、これを材料としてサナギになる直前の幼虫の体液から謎のペプチド物質を抽出、モンシロチョウの学名 *Pieris rapae* に因んで「ピエリシン」と名付け、数々の実験を開始。この「ピエリシン」をがん細胞に選択的に働きかけて死滅させようとの目論みに国立がんセンターの副所長、若林敬二医師が取り組んでいる。一匹のサナギから約0.1mlの緑っぽい液体が得られ、遠心沈殿で透明になる。それを希釈してひとの胃がん細胞を培養したものに加えたところ、約6時間後から細胞がアポトーシスを起こすことがわかったとのこと。体液0.1mlを10リットルに希釈しても効果があるとされ、これは100倍以上に薄めたこととなります。専門的なことです。ピエリシンペプチドのDNAを電気泳動すると、アポトーシスに特有な梯子状の分断DNAのパターンを示したと云う事です。ピエリシンの効力は非常に強く、がん細胞だけでなく、残念なことに、正常細胞も殺してしまうと云うことですが、実験ではマウスにヒトのがん細胞を移植して、微量のピエリシンを注射すると、がん細胞が見事に抑制されたという結果も出ています。そこで正常細胞をそのままにしてがん細胞だけを攻撃するように遺伝子の操作ができれば、新しい制がん剤となる可能性は充分にあるとされ、同じ理屈で痒さを誘発する細胞のみを選択的にアポトーシスさせることができればアトピー治療薬も夢ではありません。キャベツ畑で青虫を見かけたら「キャ〜っ」と云う前に、アトピー治療の薬を作ってくれるかも判りませんので「頑張ってるね」って声をかけてあげたいですね。



## 法人賛助企業様ご紹介 第18回

(敬称略)

協会は多くの法人賛助会員さまの年会費によって会務を行っており、本紙面を通じまして日頃お世話になっている法人様を順次ご紹介しております。関係各位にはコメントをお願いしておりますので是非アトピーの患者さんへのひとことをお願いいたします。

### 西川リビング株式会社

平成19年(2007年)ご入会

- ◆ 所在地 541-0053 大阪市中央区本町1-3-15
- ◆ 電話 06-6261-9116
- ◆ 業種 繊維製品、健康機能寝具
- ◆ アトピー関連商品 ベビー敷きふとんDタイプ、ベビー洗える合繊掛けふとん、ベビーロイヤルスター羽毛掛けふとん、ベビーフィールふとんカバー、メディエルベビーふとんカバー、アレルゲン除去ロイヤルスター羽毛掛けふとん、アレルゲン除去ふとんカバーホームページ
- ◆ アトピー患者さんへのひと言 寝具寝装品は直接肌に触れることが多く、お肌がデリケートな方用に細心の心配りで生産管理。またアトピーの赤ちゃんにも羽毛布団でおやすみ頂けるようダニ対策を厳重に行った寝具も取りそろえています。お肌へのいたわりと快眠のためにぜひご愛用ください。

### 日本ベターリビング株式会社

平成19年(2007年)ご入会

- ◆ 所在地 4457-0816 名古屋市南区元柴田東町4-20
- ◆ 電話 052-619-7705
- ◆ 業種 インテリア製品総合卸・輸入
- ◆ アトピー関連商品 アレルセーブ加工カーペット アースプラス加工カーペット
- ◆ アトピー患者さんへのひと言 アトピーやアレルギーに関する悩みや情報は千差万別です。同様に対処法も様々。大切なことの一つは、暮らしを見直してみることだと思います。アトピーやアレルギーでお悩みの方が一人でも多く喜んでいただける様な「優しいカーペット」を企画していきたいと思ひます。



## ◆ 吸血昆虫の「忍法」を暴いて抗血栓薬開発 ◆

三重医科大学の鎮西康雄教授は南米産のオオサシカメムシの唾液成分を研究し血管系の薬剤を開発に取り組まれている。オオサシカメムシは吸血昆虫で攻撃する対象動物に気づかれないように麻酔をかけ、また吸血しやすいように血管拡張作用を兼ねた唾液を打ち込み吸血。ほんの僅かな量で作用が現われるオオサシカメムシの唾液成分はとても強力であるという。従ってこの薬理を解明して取りだせば力価の高い薬剤ができます。

オオサシカメムシの唾液腺には血液の凝固にかかわるセリンプロテアーゼなどの酵素が含まれていて、これにヘパリンなどが関与し血液の凝固を妨げたりします。このメカニズムを解明し、唾液腺のDNAを読み取って大量に培養、抗血栓薬の素材として開発の糸口を探っていることやここでバキュロウイルスがひと働きします。

オオサシカメムシの唾液腺から読み取ったDNAをコピーしバキュロウイルスに作らせる手法。唾液腺物質が大量につくれることから、これを材料に凝固した血液を溶かす抗血栓薬やマイルドな麻酔効果の搔痒抑制薬などの研究がすすみ、アトピーの痒さ地獄から解放されるかも知れません。その時は臭いなんてとても言えないカメムシ様々ですね。

## その② 思いきった発想のバイオ治療

## ◆ ウジ虫が命を救うマゴット・セラピー ◆

「マゴット」と云えば楽器のファゴットを連想し、とてもロマンチックに聞こえますがウジ虫と聞けば「オエーっ」ですね。でも無菌環境で育成したウジ虫が皮膚潰瘍の治療に貢献していることは意外と知られていません。

ウジ虫…、どうもイメージがよくないのでマゴット虫としましょう。マゴット虫は皮膚組織や筋肉が細菌に冒され壊死した部分のみを選択的に食し、健全な部分は食しません。このような習性を利用して例えば糖尿病で毛細血管が閉塞し潰瘍状に壊死した病変の治療にマゴット虫が活躍することになります。

具体的には病変で出来た空洞部分に無菌育成のマゴット虫を数匹封入し、幹部をガーゼなどで密閉するだけで薬剤は使いません。マゴット虫は病変部のみを食して成長、幼虫があまり成長しない2日後に取り出して「お役目ご苦労」と云う事になります。これを数回繰り返すことで壊死した組織だけ取り除かれ、新しい肉が盛り上がってくるということです。

## \* 命にかかわる時は気持ち悪いなんて云っておれません \*

成虫になる前に排除しますので病変部で繁殖することはなく、また無菌育成ですからマゴット虫による二次感染も全くありません。患部がきれいになるのは、マゴット虫が口から出すさまざまな物質、タンパク質分解酵素が壊死した組織を溶かし、また抗菌ペプチドは多剤耐性菌も攻撃、生理活性物質の刺激で傷が治るのに必要な血管が新しくできるという仕組みで良いことづくめです。ただ気持ちが悪く二の足を踏むだけです。

マゴット虫を使った治療は古くから行われていて、また先の大戦の時に負傷した兵士にウジ虫が巣食うようになれば傷が治ると云う現象もあって、有効性は確かめられていましたが、抗生物質の登場で姿を消したという。しかし複数の抗生物質が効かない多剤耐性菌の広がりによって欧米でマゴット・セラピーが復活、米食品医薬品局(FDA)も医療用ウジを生体材料として認可しました。

さてマゴット虫とは「ヒロズキンバエ」という、ありふれたハエの幼虫で、無菌環境で孵化し約2週間育成したウジ虫です。「ヒロズキンバエ」は果樹園での花粉の媒介にも大活躍しています。

## ◆ 究極のプロバイオティクス??糞便移植(FMT) ◆

「おえっ」のお話をもう一つ。1995年に東京大学獣医学教室の平山和宏准教授は無菌ラットにヒトの糞便菌叢=ヒトフローラを投与してヒトフローラマウスを作り出し患者さんへの抗生物質投与計画の

研究用に提供する試みがなされ、また豚糞便のフローラを投与したブタフローララットも実験材料となり糞便移植の有益性が少しずつ解明されるようになりました。いっぽう一部の国では昔から「糞酒」と云う民間療法があり、これは健康な人の糞便をお酒に漬けこみ有用な菌類を得るもので腸内細菌叢の改善を図ったものとも考えられます。腸内細菌叢が不健全になり、それがもとで特定の疾病の治療が困難になった時にこのような腸内細菌叢の総入れ替えを行うという選択肢もあって、それじゃ「えいやっ」って腸内に健康な他人の糞便を送入して総入れ替えする「糞便移植」が臨床的に試みられ好結果を得ていると云う事です。

表題に??と付けたのは「腸管内の正常なマイクロフローラに作用しバランスを改善することにより生体に利益をもたらすこと」と云うプロバイオティクス定義からすれば、少々荒っぽいですが究極のプロバイオティクスでしょうか。

## \* まさか…アレを食べる訳ではないのでご安心を \*

糞便移植には糞便を生理食塩水で希釈してチューブにて直接、腸内に送るFMT(Fecal microbio Trans plantation)と近親者などから提供を受けた糞便の細菌叢を分析し菌類を培養し細菌叢と同じ比率の配合の人工糞便を用いるRePOOPulateと云う方法があり、カプセルにして飲む方法もカナダで試みられています。

糞便を直接、腸内に送る方法には腸内鏡を用いる方法、肛門経由の方法、そして経鼻十二指腸チューブを用いる方法があって、短時間で処置だそうです。糞便移植の副作用は報告されていないと云う事で一応は安全だとされています。

わが国では臨床例は少ないのですが数年前に欧米で毒性の強いCDADと云うO157のような感染症が大流行しました。デフィシル菌と云う腸内に普通に居るクリストリジウム属の細菌が異常増殖し腸内細菌叢のバランスが大きく崩れ、そのために悪性の下痢などを引き起こす怖い病気で致命的な重いケースも報告されています。CDADはデフィシル菌関連下痢症の略でデフィシル菌とは最初、なかなか培養が出来ず困難=デフィカルトだったことに由来します。

## \* 抗生物質が正常な腸内細菌叢も破壊 \*

なぜ異常繁殖するのかと云うと、他の病気の治療で抗生物質が大量に投与され有用な菌まで抗生物質の犠牲になった中でデフィシル菌のみ耐性が強く生き残るからで、いったんCDADに罹ると、バンコマイシン以外の抗生物質は効かないと云う厄介なことになります。しかしバンコマイシンも効かなくなるとお手上げ。そこで最後の手段として糞便移植が選択され驚異的な回復が得られたと云う事です。糞便移植は潰瘍性大腸炎やクローン病にも適用されるそうですがアトピー性皮膚炎は腸内細菌叢の不健全に由来するケースもあり、難治化の治療に期待できそうな…、しかし逃げ出したくなりそうな…。でも理屈は判りますね。なおCDADにつきまとは杏林大学医学部感染症学教室の神谷 茂先生のレポートを参考にしました。

## その③ まだまだありますスゴイ事例

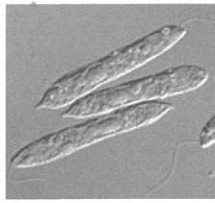
## ◆ 身近な微生物が人類を救うかも…「ユーグレナ」◆

古い話で恐縮ですがもう半世紀前になるのかな? 「ソイレント・グリーン」というSF映画があって食料難にあえぐ人類の救世主として汚物や死骸を培養基としてコロラ状の緑色の微生物が工場生産され、それによって生命を維持し、人類はかろうじて生き残っていた…という設定の近未来物語でした。その半世紀前の人口は約30億人。現在、地球上に70億人が住んでいて7人に一人、10億人が飢餓状態、特にアフリカ諸国は深刻。穀物の確保をめぐる各国が熾烈な争奪戦を繰り広げています。そんななかタンパク質をはじめビタミンやミネラルなど栄養価が豊富な「ユーグレナ」という微生物の養殖に出雲 充氏が研究と実験を重ねて成功、商品化がすすめられています。アオコ発生の原因の一つになっている「ウログレナ=ユーグレナ」がコロラ、スピリリナに次ぐ第三世代の微生物として浮上してきました。ユーグレナは池などでごく普通に見かける見られる微生物で乾燥量の25%が蛋白質。ビタミンA、ビタミンC、リノール酸、リノレン酸、ア

ラキドン酸、EPAを含み、またコレステロール吸収阻害の働きもするという。これは有望株かもしれません。

ユーグレナまたはウログレナは別名ミドリムシという光合成を行なうプランクトンで緑藻といわれているクロレラや藍藻のスピリリナとは少し違った生態。どちらかといえば「ミジンコ」などに近い微生物で旺盛な繁殖力を持つものの、他の生物の餌として食べられるため養殖しても歩留まりが悪く商業ベースに乗らなかつた。そこで他の生物が生きられない強酸性の環境でも育つユーグレナを選んで養殖に成功。ユーグレナにはパラミロンと云う有効成分があつてクッキーなどに混ぜてビタミンやミネラルを補ったりサプリメントやまた化粧品としてもラインナップ。

ビタミン類では特にビタミンB群を多く含み、ミネラル類では亜鉛、マグネシウムなど9種類を含有。またDHA、EPAや必須アミノ酸の9種類全てが、バランスよく含まれているということで、とても有望。皮膚の健康に有益な亜鉛の含有はちょっと見過ごせませんね。早速にさまざまな健康食品企業や化粧品会社が入り乱れてさまざまな商品展開を開始、アトピーの方に狙いを定めた商品もあつて、ブームだからって口車に乗らないで出雲先生の研究室からのウーグレナなのか、そうでないのかを確かめてから試してみましょう。なおこの「ユーグレナ」は光合成能力が高く、「動物」と「植物」の両方の機能を兼ね備えていて炭酸ガス吸収力は高効率という。火力発電所などの廃ガスから炭酸ガスを固定する実験も行なわれ好成绩を取めているということです。どこにでも生息していて中学校の理科の教科書でおなじみのミドリムシ=ユーグレナが、もしかしたら人類の救世主になるかもしれません。まさに「灯台もと暗らし」ですね。そう云えば強酸性に強いユーグレナは東京大学卒の研究者、出雲先生が東大校内の「三四郎の池」で見つけたとか。



#### ◆ ついに夢の繊維「スパイダーシルク」の合成に成功 ◆

芥川龍之介の物語「クモの糸」は地獄に落ちた悪人「カンダタ」にも善行のあつたことから彼を救おうとお釈迦さまが天国からクモの糸を垂らし、それに捕まって天国に上ろうとして下を見ると大勢の罪人がクモの糸に群がっている。それを見て彼はクモの糸を独占しようとして「俺のものだ」と叫んだ途端にクモの糸が切れて再び地獄に落ちる短編物語。龍之介先生はまさかそれが実現するなどとは思って見なかったでしょうがクモの糸の強靭さをご存知でしたからこの物語が書かれたのでしょうね。しかし合成に成功したクモの糸は髪の毛程度の太さなら5人や10人ぶら下がっても切れることはないそうです。クモの糸は平均25ミクロンで髪に毛の四分の一の太さです。繊維は「スパイダーシルク」と呼ばれ、そのしなやかさと強靭さで夢の繊維といわれていますがクモは単独行動の虫でカイコのように集団での人工飼育が出来ないので量産化は不可能とされていました。そのスパイダーシルクの組成をくわしく調べアミノ酸の配列を人工的に組み替え試行錯誤の末、合成に成功。素材が人工たんぱく質なので石油を原料としないところが他の合成繊維と異なる特長。量産化に成功したのは山形県鶴岡市にある慶応大学先端生命科学研究所の関山和秀氏で、現在、株式会社「スパイパー」の社長。合成スパイダーシルクは「QUMONOS」と命名され鶴岡市の工場も稼働し効率よく量産できる技術の確立を急いでいるという。

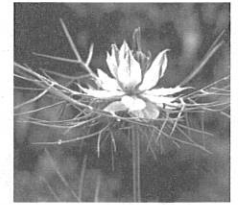
スパイダーシルクは鉛筆ほどの太さのザイルで大形旅客機を引っ張るほどの強さがあり、鋼鉄より4倍の強さ、また現在、最強の繊維とされている「ケブラー」の10倍の強さでナイロンより柔軟、夢の繊維に相応しい特性を備えています。強靭さを応用したタイヤの芯地など工業素材の分野に大きく期待されていますが、ファッションの分野でも柔軟性に優れ、しかも軽く強靭と云うことでデザイナーにとっては魅力的な素材です。ファッションとは少しかけ離れますが現在、防弾チョッキが試作されています。衝撃にも耐えることで「ウエアラブルPC(コンピュータが服に組み込まれたもの)」の生地としてはうってつけかも知れません。

さて天然のスパイダーシルク自体は紫外線に強い特性もあつて繊維自体がサンスクリーン効果を持っています。この特性は「QUMONOS」

にも受け継がれ、紫外線透過をコントロールすることで医療現場での活用も考えられています。またスパイダーシルク「QUMONOS」は繊維となる高分子=タンパク質のアミノ酸の配列の研究から出発しているので、その組み換えにより更なる機能性を加えることが出来るそう、人の肌に近い機能をもったスパイダーシルクや繊維のなかに薬効を発揮する物質に作りかえることも夢ではありません。

#### ◆ ニオイクロタネソウはリンデロンに代わるのか ◆

意外なところからの興味ある話題も見つきました。イランのシャヒード・ベヘシュティー大学(イラン国立大学)の研究報告ではニオイクロタネソウと云う花の種からリンデロンに相当する治癒効果のある物質が見つかったと云う事です。ニオイクロタネソウはブラックミンとして香辛料になっていてニゲラとも云われています。原産地は地中海沿岸で園芸種の日本への渡来は大正時代。イランと云えば6世紀頃、ペルシャをはじめ中東諸国では科学が発達、医学薬学もその一翼を担い、ルネサンス前後にヨーロッパに「アラビアの医学」として伝わり現代医学の礎となっています。



アルコールやアルカリなどアラビア語を語源としているコバはその名残です。また私たちが使っている「洋数字」はインド発祥でアラビアを通じてヨーロッパに入ったために「アラビア数字」と呼ばれ、この数字を使い始めて科学が急速に発達したと云われます。それまで使われていたローマ数字のⅢとかⅤとかⅦで掛算することを考えてください……、位が万になるとお手上げですね。少し脱線しましたが中東には「ユナニー医学」といって中東の「漢方」のような医学が独自に発達し、インドのアーユルヴェーダとともにオールターナティブ(代替医学)として脚光を浴びようとしています。

さてイランの件ですが、ニオイクロタネソウのエキスを手に湿疹のある被験者60人を3群に分けてニオイクロタネソウ群とバタメサゾン群、および保湿剤のユーセリン群で臨床比較し4週間の経過を見たところユーセリンに比べてニオイクロタネソウ群が優位となり、またバタメサゾン群とは大差のない結果となったと報告しています。と云うことはニオイクロタネソウ=香辛料のブラックミンからバタメサゾン級の外用薬が生まれる可能性も出てきたと云うことで成り行きに注目したいでもの。

#### ◆ サナギ溶液がつくるキノコ「夏虫冬草」 ◆

繊維の研究では京都工芸繊維大学がわが国では著名ですが一田昌利准教授の研究チームはマユを作ったあとのサナギに注目し、これを乾燥して煮出して培養液をつくり、これでキノコを栽培する技術を確立し、本格稼働を開始したということです。これにより漢方薬で人気の高いハナサナギタケ=冬虫夏草の大量栽培が出来るようになり、その成分抽出物から新しい薬が作り出されようとしています。冬虫夏草は虫の遺骸から生えるキノコでセミの抜け殻に生える「セミタケ」が知られています。自然に生えたものは希少でとても高価な漢方薬でとくに中国の貴州省や雲南省のものは皇帝だけの高貴薬でしたが、今では中国でも採取されず幻の高貴薬。現在、市場に回っている冬虫夏草のほとんどは人工栽培といわれています。この技術を応用しハナピラタケからβグルカンを抽出する方法も確立されています。

#### ◆ トウモロコシ繊維がハイパワーに ◆

同じ京都工芸繊維大学の木村良晴繊維化学センター長はポリ乳酸繊維の第一人者ですが、そのポリ乳酸(PLLE)繊維をさらにパワーアップすることに成功。ポリ乳酸繊維は旧カネボウが肌着などで商品化し、日本アトピー協会の推薦品マーク第一号とした経緯があります。ちょうど10年前のことで、協会が発足した20年前には長野で冬季五輪があつて、その時にトウモロコシを原料としたディスプレイブルな食器としてポリ乳酸樹脂がデビュー。その後、「ラクトロン」として繊維にも応用され弱酸性でありお肌への親和性もあり、風合いも良いことから推薦品第一号としました。しかし生分解性であること

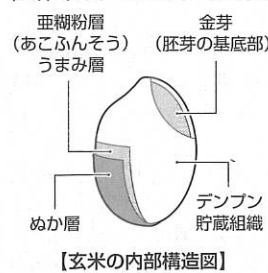


で耐洗たく性を含め耐用年数に限度があり、また熱特性に難点があってアイロンがけが出来ないことからアウターへの普及が遅れ、さらにカネボウが繊維から撤退し消滅しました。そのポリ乳酸繊維を木村先生がリニューアル、専門的なことは省きますがL-乳酸とD-乳酸を溶融混合し重合した「ステレオコンプレックス型」の結晶重合合体でネオポリ乳酸繊維としてデビュー。耐熱性と耐摩耗性が向上、すでに医用繊維として縫合糸などに応用されています。肌によさしい繊維ですからインナーへのカムバックに期待したいですね。

◆ 香川大学が学会発表、世界中が注目する「金芽米」 ◆

ヘルスマーターのタニタが経営する「タニタ食堂丸の内」店では毎食時、オフィス勤めの女性が行列をつくるほどの盛況とか…。その和食のすべての献立に「金芽米」が供され、またテイクアウトのお弁当で有名な「ホット・モット」のご飯も金芽米。キンメマイ…、耳慣れない方もおられるようなので少し説明します。玄米を精米し白米にするとき「亜糊粉層」というお米のいちばん旨味と栄養素を含む層を無造作に削ってしまいます。農作物は皮の直ぐ下の部分に大切な栄養素が含まれていると云われ、お米も例外ではありません。金芽米は玄米のヌカの層だけを削り亜糊粉層を残し、また胚芽も残す「均圧精米法」という特殊な方法で精米したものの。白米にはありませんが玄米などをよく見ると胚芽の部分が金色のような黄色のような、そんな感じに見えることから、胚芽は金芽とも称され金芽米と名付けられました。すでに10年に近い実績があって

平成17年に和歌山市の東洋ライス株式会社から発売、現在では各産地米の金芽米が市場に出回っています。白米にはなく金芽米には残されている亜糊粉層にはLPS=リボポリサッカロイドという糖脂質が含まれ、自然免疫活性物質として注目されています。自然免疫はアレルギーをはじめ、ガン、感染症、認知症、メタボリックシンドロームなどの予防改善効果など、身体の健康維持に重要な役割をはたす体内システムで、LPSがその活性化を担っています。LPSは高麗人参などに含まれることは知られていて高麗人参に比べて量は少ないですが、コメにも含まれ主食として毎日食することで有効に摂取できるため、LPSを含む亜糊粉層を残存させた金芽米が自然免疫物質として注目を浴び、1日2合(300g) 食べることで、LPSの1日推奨摂取の約3割をまかなうことができるとされています。糖脂質を研究テーマとしている香川大学医学部統合免疫システム学講座 杉源 一郎 客員教授の研究チームが昨年5月に名古屋で開かれた第57回日本栄養・糧秣学会で亜糊粉層を残存させた金芽米のLPS成分の自然免疫



に対する有意義性を発表。また昨年6月に東京で開かれた国際的な学会の第8回臨床栄養学会APCCN2013においても同様の発表を行い、金芽米は一躍世界の注目を浴びるようになりました。自然免疫活性物質を含み、アトピー・アレルギーに有意義性があるとされる金芽米は一度、試してみる価値があるのではと考え、紹介しました。

\*\*\*\*\* 消費税が8%になって医療費はどうなるのでしょうか \*\*\*\*\*

いよいよ消費税が8%に、そして二年後には10%に引き上げると云う事も…。アトピーやアレルギーを持っている方には気をもむことですが、今のところ極端には影響しないような雰囲気です。意外と見過ごしているのは「保険診療」に関しては非課税で患者さんの税負担は原則ありません。これは消費税が出来たときに医師会が当時の大蔵省に働きかけて非課税扱いにしたものでその恩恵です。医師も資材関係での3%程度の負担なら…と太っ腹だったのですね。ところが病院やクリニック運営の経費に8%も負担がかかり、やがて10%になると大変、太っ腹なんて云っておれません。過去に医師会が非課税を提言した以上、いまさら課税して患者負担にせよとは云えず首を絞めることになりそうです。そこで厚労省と財務省が診療報酬「上乘せ」の比率をコマ以下の%で数字の攻防をくりかえし、どうやら全体で1.36%プラスに決まるようです。診療報酬を含めて医療費は25年度予算で約11兆円、これはアルゼンチンやギリシャの国家予算に匹敵する額。ちなみにわが国の国家予算は約218兆円。この医療費を1%上昇させるだけで1千億円の国の費用が必要で。さて保険診療は「診療報酬本体」と「薬価」の二本立てとなっていて改定では本体部分は0.73%プラス、薬価部分が0.63%マイナスの改定率と設定され、アトピーやアレルギーの方には薬価が低く抑えられるのは喜ばしく、またジェネリック(後発医薬品)の薬価の見直しでさらに負担が軽くなる場合もあります。

公立病院が危ない

大変なのは病院経営…。地方自治体の公立病院では現状でも患者さんの減少で縮小する病院もあり、そのうえに消費税アップの追い打ち。一般小売店なら仕入れ価格の消費税がアップしても買い物客から同じ分、回収出来る理屈ですが、医療関係では資材などの購入に税負担があり、いっぽう患者さんには税負担がないので回収できずアンバランスとなり消費税8%は半端な数字ではありません。例えばMRIや放射線療法などの機器類はほとんどがリースでモロモロの医療機械器具も合わせて総計千万円にも及ぶ場合、税負担は80万円、消費税アップ分30万円として年間360万円となる計算、それに医療消耗品、給食の食材、ベッド回りや洗濯代、清掃消毒…、すべてに3%アップで積み積もって大きな金額。そこへもって公立病院の義務としての生活保護世帯患者の受け入れ。差益を出すにも出せず公立病院は自治体財政も含めて窮地に立たされているということです。

薬局さんちょっと心配顔

医薬分業がすすんで今では開業医でも薬を出してもらう窓口は院外、寒い日や雨の日などは調剤薬局に足を運ぶのは煩わしいものですね。薬局側も医師の診察が長引けば薬局を開けておかなければならず皮膚科の先生とタグを組むとちょっと気の毒かな。今回の薬価改定のポイントは! ①大型門前薬局の適正化と、②ジェネリック薬使用の促進、③在宅医療の質の向上に貢献する薬剤の採用と云った内容で、三つ目は別として大型門前薬局って名称はイメージが湧いて面白いですが、適正化と云うからには不都合なことがあったのかなと思いますが、これは薬価算定の関係で24時間開局を義務付けられ、真夜中でも患者さんに対応しなければならず人件費などにしわ寄せし薬局経営も大変。その上に薬価の引き下げですから、何処かで調整しようとする親心でしょうか。ジェネリック薬の使用促進は患者さんにとっては歓迎すべきこと。いっぽうジェネリックを出す側にとっては、儲けが違いますから、やっぱり「ピカ新=特許を有する先発薬」を出したいでしょうね。一部の患者さんですがジェネリックは粗悪品と云う思いこみされているようですが、同じ薬効ですから患者負担の低額の方がメリットは大きいのです。医薬分業が進んで薬局は忙しくなりそうですが、それに見合った報酬なのでしょうか…患者団体には判りません。機会をつくり調剤薬局の先生方のお話を聞いてみます。

自費診療はわが世の春でしょうか

前述のような病院やクリニックの経営が苦しいなか、歯科や美容皮膚科などは自費診療が建前となっていて非課税ではなく8%の消費税は患者さん負担。そこで今後は保険外診療の病院やクリニックが増えてくることも予想されます。またTTP(環太平洋戦略的経済的連携協定)の条約締結の内容によっては医療制度も自由化となり、アメリカのように自費診療主体の医療制度になってしまう可能性も否定できず病院やクリニック経営は「医は仁術」と云う呪縛から解放されてわが世の春が来るかもしれません。逆に患者さんには地獄の冬でしょうか。あまりにも巨額に増え過ぎた医療費を是正する荒治療として自民党政府が目論んでいるかも知れない怖さがあります。現状でもアトピーの方は長引く治療にへきえきし、また薬物療法を忌避して民間療法や保険外診療を選択する方も多いのですが、今後は費用面での十分な検討が必要でしょうね。

どちらがトクなのか選択に迷う「スイッチOTC薬」

保険診療の見直しでスイッチOTC薬が増えそうな気配。スイッチOTC薬とは処方箋薬でもあり処方箋なしでも薬局で買える医薬品のこと。アトピーの方にはお馴染みのイソジン（ポビドンヨード）が「スイッチ」になり、ややこしいことになりそうです。医師に処方しても安くなるのをわざわざ高い値段でOTC薬を買う人はいないと思うのですが、どうなのでしょう。まあアトピーでない方はうがい薬としてイソジンを買っても薬箱で眠っていることが多いでしょうけど…。同じことがアレグラにも云えますがこちらはアレルギーの方、とくに花粉症の方には手放せないお薬。アレグラはフランスの製薬会社が開

発した抗アレルギー薬でフェキソフェナジン塩酸製剤、サノフィー株式会社から出ている処方箋薬。薬価は一錠当たり75.6円ですが普通は3割の自己負担ですので22円強。同じものがOTC薬として薬局で買えるようになりましたがこちらはまるまる75.6円。診察を受ければ保険診療で安く出してもらえらうとは云うものの、初診料や診察にかかる費用などを見込むと、短期的にはOTCで買った方が安いかな？しかし長期的な服用や、ほかのお薬の「ついでに」といった場合には医師処方の方がはるかにお得。また医薬品ですから医師の指導を受ける、あるいは薬剤師さんに相談してください。OTCだからと云ってサプリメント感覚で自己判断し、ネットで購入するなどは控えない方がいいですね。（イソジンのスイッチ化は今回は見送られました。）

\*\*\*\*\*

ハイ！アトピーづき合い40年の友実です \*

フリーアナウンサー 関根 友実 連載第12回



私には小学校からの親友が一人います。当時、男の子たちにいじめられていた私を力強く守ってくれていたヒーローのような女の子なのですが、彼女も成人のころにアトピー性皮膚炎を発症して、私と同じような症状に悩まされるようになりました。どこまで仲がいいんだろうと苦笑してしまいます。彼女は意味のわからないものに縛られるのは嫌だという理由で、一切パソコンのメールアドレスも携帯電話も持ちません。だから、お互いの消息は一年に二度、互いの誕生日に書く手紙と年賀状で知るのみです。それでもしっかり繋がっていると確信できる心の友です。また、彼女が主治医を紹介してくれて、数年前から同じ皮膚科のドクターに診てもらっているという縁もあるので、ドクター伝いに近況を聞くこともあります。とにかく新鮮な野菜を食べたいと、数年前から彼女は家庭菜園を始めました。緑黄色野菜をいっぱい食べなさいと指導する食事療法メインのドクターのもとで治療をしているので、たっぷり野菜をもりもり食するためだと思っていました。しかしながら、「せっかく生まれたんだから、美味しいものを食べたい」という食への強いこだわりゆえのこと。さらに、現在の彼女の趣味は「こだわりのフレンチを食べること」というではありませんか。お肉やバターがたっぷりなフレンチはドクターが推奨する和食の対極にあるのですが、彼女は「日頃は和食、でも、人生を楽しみたいから、たまにはご褒美にフレンチ」という生活を送っているそうです。それは素晴らしいことだと思いました。治療のために我慢を強いられることは多いです。でも、それも自分自身のためですので、大切なことではありません。ただ、ストイックに頑張りすぎると気持ちがいびくことは事実です。たまには、自分を甘やかす、心に栄養を与えることは必要です。先日、彼女のお勧めのフレンチを2人で食べに行きました。約束はメールや携帯電話では交わさず、年賀状と自宅のファックスを駆使してアポイントをとりました。思えば、昔は世の中の人々も家の電話か手紙で約束をしていたと思うのですが、今は私自身も当たり前のようにメールやラインなどのSNSのツールを活用しているので、こういった彼女とのアナログなやり取りが非常に新鮮でワクワクしました。五年ぶりに会った彼女は農作業で日焼けをしており、健康的に笑っていました。前に会ったのは彼女が悪性リンパ腫を発症した時で、抗がん剤治療のために髪の毛が抜けていましたが、すっかり元のショートカットになっていました。そして、口の中で粒子のように溶けて行くような牛肉の煮込みを食べながら、プロピック軟膏についてマニマニな会話を繰り返した一夜でありました。これからは毎年、彼女のお勧めのフレンチを食べに行くことを恒例行事にしようと約束して、別れました。……………(次号につづく) \*

Atopic who's who

わが国の医学の基礎を築いた医聖 曲直瀬 道三 (まなせ どうさん)



約五百年前の人物でアトピー・アレルギーとは道三の子の曲直瀬玄朔が豊臣秀頼の喘息を治療したと云う以外に関わりは薄いのですが、わが国の中世社会に医学と云う概念を広め、また医の恩恵は万民平等であるべきと云う、医の博愛を唱えた医聖として、さらに現代でも通用する健康法を実践し平均寿命の短かった戦国時代に87歳という長寿を全うした、今風にいえば「センテナリアン=百歳寿老」として紹介します。道三は1507年(永正4年)に今の滋賀県守山市に生まれ、すぐに両親を亡くし、禅宗の京都相国寺に入り禅僧としての修行を積み21歳の時に関東に下って足利学校に入ります。当時の足利学校は今でいう東大に当たる最高学府で全国から秀才が集まったという…。そしてそこで当時の明国から帰国した田代三喜医師と出会い教養を受けて医学の道を歩むようになります。明国の進んだ医学をわが国に紹介した田代三喜も後世に医聖と呼ばれますが、僧職から医師に文字通りの宗旨替え。この出会いがあって39歳の時に道三は京都に戻ります。政治の中心地、首都の京都には貴族や大臣、武将が多く住んでいて、田代三喜医師直伝の明の医学を学んだ曲直瀬道三の名前はたちまち知れわたる宮中にも出入りし天皇の侍医にもなります。また織田信長の主治医にもなり名声は高まる一方でした。そのような中であって万民分け隔てなく庶民も診察したと伝えられています。晩年になってイエズス会宣教師のオルガンティノをし診察しその感化を受けてキリスト教に入信、ベルショールの洗礼名で外国にも名が知られるようになったという。治療の傍ら後進の指導にも熱心で、数々の著書は現代にも充分に通じる内容で、とくに道三自身が87歳の長寿を得た養生訓は貝原益軒に先立つこと三百年前で、益軒の養生訓は道三を下敷きに構築したとさえいわれています。参考までにその一部を現代語?に訳しますと……心のわだかまりを捨てて淡々と過ごす=ストレス解消 消化しやすいものをほどほどに食べる=胃腸負担軽減 美食や連日の飽食、偏食をつつしむ=栄養バランスほかに酒は酒量を守って酔いつぶれぬことや色の道に溺れぬことなど…以上のことを俳句に詠んでいて最後に幾ら養生訓を読んでも実行しなければ何にもなりませんよって締めくくっています。道三も粋なお医者さんだったんですね。サプリメントやグルメなど横文字氾濫の健康ブーム、医師頼みの老人医療、データー数字頼み治療、医療機器頼みの延命といった昨今の老人の現状を道三が見たらそう思うでしょうね。養生法を守り、精神を強くし、禅や華道、茶道、香道をたしなむなど、心のあり方が病気を遠ざけると云う道三の考えはアトピーの方にも大いに参考になるのではと思います。

送達ご希望の方はご連絡ください。 書面・メールにて受付中

日本アトピー協会通信紙 あとぴいなう

通信紙「あとぴいなう」は積極的な治療への取り組みと自助努力を促すことを趣旨とし多くの患者さんに読んでいただきたく無料でお届けしております。ご希望の方はお届け先・お名前・電話番号やメールアドレスなどをお知らせください。患者さん・医療従事者の方に限定しておりますが一般の方もご希望でしたらご連絡ください。スクリーニングの結果、お届け出来ない場合もありその節はご容赦ください。なお協会ホームページからもお申し込みいただけます。

次号発行予定 5月12日  
〒541-0045  
大阪市中央区道修町1-1-7日精産業ビル4階  
電話 06-6204-0002 FAX.06-6204-0052  
E-Mail jadpa@wing.ocn.ne.jp  
Home Page http://www.nihonatomyjoin-us.jp/



## ドクターインタビュー

## 藤谷 宏子(ふじたに ひろこ)先生

医療法人博友会 藤谷クリニック 小児・アレルギー科


新歌舞伎座が難波から移設されてひと際にぎわう上本町六丁目、略して上六とも称され奈良へのアクセス拠点でもあり、お寺も密集…そんな界隈の一角で小児科・アレルギー科を開院されている藤谷宏子先生をお訪ねしました。

—アトピーの子どもさんのおられるお母さん方は、とても食物アレルギーのことを心配されており、また、昨年東京都で、給食のチーズ入りチヂミを誤食して亡くなられた事故以降、アナフィラキシーに怯える方が多いようですが…。

チヂミの事故は、大変重症な子どもさんで、本当にいろんなことが重なって起きた不幸な事例だと思います。もちろん、アレルギーのある方全員がそうなる訳ではありませんが、やはりそれだけアナフィラキシーは怖い、とういうことは認識しないといけませんね。事故以降、多くの教育委員会で、給食や指示書に対する見直しがなされました。ある意味で事故は啓発にはなったとは思いますが。それが彼女の死を無駄にしないということなのでしょうね。最近のインターネット上にはいろんなことが書いてあるので、うわべだけの情報では保護者のかたは不安になることも多いと思います。必要以上に怖がることもないのですが、ただ、どう対応していけばいいのかは、個人差もありますので、やはり、主治医の先生と相談して、自分の子どもをどう守るのか、きっちり理解していただくことが必要です。一方で最近、医師としても危険と思うのは、原因不明のアナフィラキシーが増えていることです。誤食をして症状が出た時、原因が分かれば対処もできますが、どれだけ負荷テストをしても原因が分からないときは本当に困ります。そういう患者さんは、常にエピペンを持って、何か起こればとにかく打つ、周りの人にも打ってもらう、いつ起こるか分からないということを意識して出たときにすぐさま対応していかなければいけません。そこは難しいところですね。施設の常備用としては認可されないので、周りの人にエピペンは処方箋薬で患者さん用に処方されるもので打ってもらうことはできませんが、その患者さんに処方されたエピペンしか打つことはできません。なので、学校に自分の分を持って行って預けておくことになります。エピペンが必要なときは急を要しますが、AEDのように不特定多数の人が集まる場所に設置することは、薬事法と消防法の関係で出来ないのが現状です。また救急車や旅客機にもエピペンは常備されていません。エピペンは1回打っても20分後ぐらいにまた症状が悪くなる場合もありますので、せめて救急車の中には1本ぐらい常備してほしいとは思いますが…。

—これから新学期が始まります。新入学のお子さんも多いでしょうから、学校と家庭と主治医との関係が大切だと思います。その辺のことで何かご提言等いただけますか？

新学期で大切なことは、学校側との情報の共有です。最近は「学校生活管理指導表(アレルギー用)」というものがあって、主治医が記入したものを学校に提出するものになっています。一人ずつ違う内容なので、きちんと記入するには本当に時間がかかります。この子どもさんは卵が食べられない、誤食時は薬をのませる、またはエピペンを持っているなど、新学期の始まる前は非常に大変です。しかし、管理指導表を通じて、保護者と担任や養護の先生や栄養士さんなどが、子どもの状態を理解するために、コミュニケーションをとる。出来るかぎり確実に子どもを守るためのツールとして、管理指導表を活用していただくことが大切ですね。重症な子どもさんの管理指導表の作成は本当に大変なのですが、例えば、学校などで万一アナフィラキシーが起こった時も、管理指導表は非常に有用です。医師の紹介状と同等の役割を果たすからです。救急車で搬送する際に、搬送先の医療機関に持って行けば、何が原因で、主治医が誰かも分かります。そういう意味でも、管理指導表は上手に活用することが望まれます。去年の7月に日本小児アレルギー学会からエピペン使用についての対応ガイドラインが新た作成されました。エピペンの使用を判断する時の症状や基準などが、一般の方にも分かりやすく記載されています。重症になりやすい人は、ためらわずにエピペンを使う方がいいと思います。そのような内容は管理指導表にも記入されているので、重症のお子さんを持つ保護者の方には特に管理指導表を十分に活用していただきたいですね。学校と家庭と主治医が、フェイス・トゥー・フェイスの密接なコミュニケーションを心掛け、子どもたちの安全をみんなで



藤谷 宏子(ふじたに ひろこ)先生のプロフィール

<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 関西医科大学卒業</li> <li>◆ 大阪市立小児保健センター、大阪市立北市民病院小児科勤務を経て藤谷クリニック開業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 日本アレルギー学会専門医</li> <li>◆ 日本小児科学会専門医</li> <li>◆ 大阪小児科医会副会長</li> <li>◆ 大阪府女医会理事</li> <li>◆ 日本医師会認定産業医</li> <li>◆ 子どもの心相談医</li> </ul>
---	--

守る、そういう形を築いていけたらいいと思いますね。

—お母さん方は外用剤の塗り方に戸惑うケースもあるようです。皮膚科では以前からフィンガーチップユニットが使われていますが、先生ご自身は幼児・小児でどのような指導をされているのでしょうか？

フィンガーチップユニットとは、ご存知のように成人の人差し指の先から第一関節までの長さに出した薬の量をいい、外用剤の量の目安として使われています。一般的には両手を合わせた手のひらの面積にこの量を塗る訳ですが、子どもにもそのまま当てはめてしまうのは、少し無理があると思いますね。塗布が必要な皮膚面の広い場合は、保湿度も十分に外用剤もたっぷり、しっかり塗るようにと指導しています。しかし、外用剤も保険診療で処方出来る量が限られていますので、病状に合わせた十分に必要な量の処方を受けてほしいと思います。

—先生が日頃、診察室でアトピーの方を診ておられて、最近の傾向やお気づきの件など有りましたらお聞かせください。またお母さん方へのアドバイスなどをお願いします。

最近PM2.5の影響を感じます。目が痒くなったとか、急に鼻水が出てきたとか、夜間に咳が止まらないなどの訴えが多くなってきました。PM2.5が多い日も、お子さんは元気に外で遊ばれるので、夜になってすぐ咳が出たというような患者さんが急に増えましたね。子どもさんは身長が低いので、地面に落ちて跳ね上がった微粒子にも影響を受けやすいのだと思います。これから春にかけて、スギ花粉などの影響で、鼻炎とか目の痒みなどの症状が悪化しやすいのですが、皮膚が痒くなる人も多いのでスキンケアも大切です。花粉アレルギーのある人や、黄砂やPM2.5などにも反応するという人は、外に洗濯物も干さないようにするなど、日常生活でも細かいところに気をつけたいです。また、洗濯の際、漂白剤や柔軟剤、香料の入っていない、できるだけ自然で添加物の無い、刺激の少ないものを使うことを心がけることも大切です。また、アレルギーの症状は単一の原因で起こるわけではありません。その人に関係することすべて、体質や遺伝的なこと、環境やストレスなどによって、症状の出方、治り方は一人ひとり、毎回違います。卵アレルギーがあるとしても、卵アレルギーだけを診ていては十分な対応ができません。全人的というか、周囲も含めたまるごとの人間として、例えば親子関係、そういったものも全部見ながら、治療していかないと良くならないですね。数学の様に解答が一つというわけではなくて難しいですね。また最近では、言葉でのコミュニケーションをとるのがあまり得意でないようなお母さんも少なくありません。私は、診察の時には必要なことを聞くためにいろいろと質問をしますが、なかなかうまく答が引き出せないこともありますね。アレルギーとは直接の関係はないのですが、お母さん方は、学校の先生に対してやいろんなところで、子どもの病状を伝える必要があることも多いですし、また、自分の子どもにもわかりやすく話すことも大切ですね。でもそれが上手く出来ないようなので、いろいろな場面で少し心配に感じています。

—有意義なお話ありがとうございました。新学期を迎える方にとってとても心強いアドバイスになったと思います。この時期、特に忙しい先生のストレス解消は、おいしいものを食べる、飲む、そしてショッピングなどオフを楽しく過ごすことだそうです。

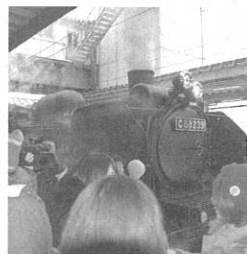
(文責・オフィス・メイ 三原ナミ)

## なぜ学校に常備出来ないの？エピペン

アナフィラキシーショック対応のエピペンを学校の保健室に常備されていないと知って、何で…って驚きました。エピペンの主成分はアドレナリン、ややこしい薬剤じゃなく百年も昔からある普遍的な薬剤。医薬品としての有効期間も1年未満ではないと思います、薬ですから安易な取り扱いが事故につながりますが、比較的取扱い易いものだと思います。何故か薬事法と消防法の関係で学校には常備出来ないとか。もしかしてこれは地域的なことかも知れません。大阪市立の小中学校に関してはエピペン常備はできないと聞いています。アナフィラキシーに怯える世のお母さん方にとってはエピペンが学校にあると云うだけで、大いなる安心感がありますね。ほとんどの公共施設や大型店舗、また企業のオフィスには心臓疾患の緊急対応用AID(除細動機)が常備されていますが、同じようにエピペンを常備するのは、そんなに難しいことではない筈。現状はアナフィラキシーを起こす可能性がある患者さんに限って医師の処方箋で購入でき自己管理で持参することができる…と云うことだそうですが、子どもさんの場合忘れることもあるでしょうし、落とすこともあり、また何処に仕舞い込んだのか緊急の場合、とっさに取りだせないこともあります。エピペンを持っていることで苛めに合うのではという心配もぬぐえませんが、学校には必ず保健室があって学校保健担当の教諭が常駐、また学校の近くには校医さんや学校薬剤師さんが控えています。エピペン管理には何重にも安全装置が働く筈です。なお相模原市ではエピペン常備と云う事も聞いていますが確かめておりません。この件に関してどなたかご意見があればお聞かせください。

## ◆東北支援関連情報◆

大阪で心臓手術をしたSLが被災地を快走!



鉄道ファン=通称「鉄ちゃん」には嬉しいニュース。東日本大震災復興支援の一環として宮沢賢次ゆかりの岩手にSL銀河を走らせる運行スケジュールがJR東日本から発表されました。運転区間は花巻-釜石間の90.2キロで計画では二日で一往復、片道4時間半、年間40往復程度の運行を予定。このために盛岡市の県営運動公園内に展示されていた1940年製の蒸気機関車C58形239号を16ヶ月かけて動体復元し3月2日に試運転が行われました。ところで大阪北区の淀川河畔に面して小さな町工場があります。株式会社サツパボイラというボイラー専門の鉄工所で従業員7人、社長は颯波郁子さん、創業は大正7年。蒸気機関車のボイラーは炉筒煙管という複雑な構造のボイラーで日本では唯一、同社でしか扱えないとのこと。C58形239号のボイラーは昨年2月の初め、さいたま市の大宮総合車両センターからはるばる大阪まで運ばれ9カ月かけて93本の煙管をすべて取り換えてボイラーを修復、いわばC58形239号の心臓手術が成功、C58形239号に命が蘇ったのです。震災救援の際、関西では地域分担を取り決めて大阪府は主に岩手県への支援を担当、それに従って日本アトピー協会でも岩手県への支援活動を行い、第一便として八尾空港から滝沢村までアレルギー-乳児用粉ミルクを搬送した経緯があり、いままた東日本大震災復興支援を担って希望を運ぶSL銀河の心臓部に大阪の町工場が大きく関わっていたと云うことは、何か因縁めいたものを感じます。運行は4月12日(土)から。大阪からは少し遠方ですが鉄ちゃんだけでなく運行期間中、SL銀河に一度は乗ってみたいものですね。詳しくはJR東日本「SL銀河」のホームページをご参照ください。

## やっぱり…、横浜山口医院「かくれステロイド」発覚

以前から噂があり患者さんからも問い合わせが寄せられていました「効き過ぎる」漢方クリームへの疑問、やはり最強のステロイド薬が含まれていることが判り消費者庁からリコールが出されました。問題の漢方クリームは横浜市都筑区中川にある山口医院が処方した外用剤「1番」「2番」で含まれていたのは皮膚科専門医でも慎重処方の「クロベタゾール・プロピオン酸エステル」で、山口医院ではステロイド含有を否定していましたが噂に違わずやっぱりでした。同医院の漢方クリームを使用中の患者さん

は皮膚科専門医の受診をしてくださいと横浜市では勧告しています。なお山口医院では4月4日金曜日2時から都筑区庁舎内都筑区公会堂にて説明会開催を予定、成り行きに注目したものです。「かくれステロイド」事件は過去に無認可の「皮炎霜」クリームが中国から輸入されネット販売等で全国に広まり健康被害が出ました。痒さで辛く、また長引く治療でついついネット販売などで即効性のある薬を求めたくなりますが、やはり専門医の診察を受けたいうで外用薬を処方してもらってください。

## 読んでみました!! この書籍!!

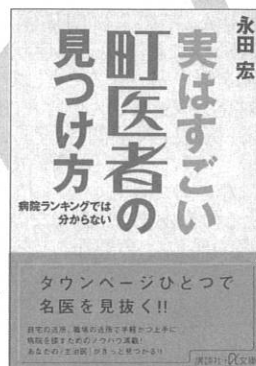
みなさんのご参考になれば幸いです。読めば参考になったり、反対に落ち込んだりする事もあるかもしれませんが、頑張って前向きに捉えて行きましょう。

【タイトル】「実はすごい町医者の見つけ方」

【著者】永田 宏著 【出版社】講談社

【定価】本体600円 + 税

皆さん「かかりつけ医」という言葉は耳にしていると思いますが、引越しや転勤での急病で、取りあえず看板を見てと今はスマホで検索でしょうか。大学病院などの総合病院でえらいお医者様に診てもらわないと…、と思っている人もおられるかもしれませんが、普段のちょっとした体調の変化を放置しない限りは、大学病院なども同様ですが、長〜いお付き合いのかかりつけ医に診てもらってあげば、最低5年間のカルテを保管してくれています。「去年にもらった、あの薬良く効いた」なんて会話もしやすいかもしれませんね。日本全国には約18万弱の医療機関があるそうです。その中から皆さんにピッタリ合ったドクターを見つける事は至難の業?かもしれませんが、ドクターには内緒の選び方が書かれています。尚、ドクターからのクレームは、協会では無く著者へお願い致します。まあ書籍になっている訳ですから内緒って事でもありませんが。



【タイトル】アレルギーと漢方

【著者】近畿大学薬学部・久保道徳研究室編者

【出版社】(株)三一書房

【定価】本体1,450円 + 税

薬学部の先生が書かれた書籍です。現代医療現場の薬を良くご存じの先生が書かれた漢方薬と現代医学への融合を感じさせて下さる書籍です。古い漢方医学書には、当時アレルギー患者が少なかった為に治療体験が余り記載されていないようですが300年以上前に、喘息に対する漢方治療の記述があったようです。IgEの発見を初めとし様々な医学会での研究が進み、抗アレルギー剤が開発され、アレルギーの基本的治療薬としてステロイド剤も開発されました。ステロイド剤は、アレルギー疾患には非常に効果を発揮するお薬ですが、素人判断で使用すると副作用があるのも事実でこれに代わる或いは補うための漢方薬への研究が進められています。巻末には漢方方剤一覧として約50種類以上が掲載されています。



図書の貸し出しいたします。詳しくはお問い合わせください。

TEL 06-6204-0002 FAX 06-6204-0052